

KAWASAKI 特活

学級活動 (1) (2) (3) 児童会活動 クラブ活動 学校行事

川崎市立小学校 特別活動研究会

検索



教育課程研究会 (南部) 特別活動 令和5年6月7日 (水)

- 小学校の職員の皆様、授業の準備や会場準備等、大変お世話になりました。

題材	学級目標	ねらい
学級活動 (1) 議題 「スポーツ集会をしよう」 授業者 川崎市立 小学校 4年 組		学級目標に近付くために、クラスみんなが協力できる集会の内容を話し合っていることができる

研究協議より 講師 川崎市立小学校特別活動研究会会長・王禅寺中央小学校校長 小堤 紀子先生
川崎市立総合教育センター カリキュラムセンター 下村 智英 指導主事

話題および指導講評

- 学級会の経験が少なかったことから、事前にキャリアノートで学級会について学習したり、国立教育政策研究所が作成した特別活動の映像資料を視聴したりして学級会についての共通理解を図った。はじめは担任が司会を務めたり、席や机を使わずに行ったりと児童の実態に合わせて学習を進めるという手立てが生きていた。
- 「まとめる」で「私たちのめあてに近付くために～」を主語にして意見を述べ、全員がめあてを意識して話し合いをしている様子が見られた。
- 学級会において、担任は子どもの発言を価値づけることが重要である。また、学級会は会を行うまでの準備が大切である。しかしまずは学級会を行ってみることが最も大切である。
- 「譲り合う」という言葉を出すことで、「譲り合わないといけないのでないか」と児童の思考を誘導してしまう可能性がある。
- 「まとめる」という言葉は複数の意見を合体するイメージをもつ児童もいる。同じ場面でも「決める」という言葉であれば、児童の話し合いが変わってくるかもしれない。

題材	学級目標	ねらい
学級活動 (2) 議題 「水分のとり方を考えようⅡ ～体に良い水分補給～」 授業者 川崎市立 小学校 6年 組 教諭 T1 教諭 T2		体に良い飲み方に気づき、健康な体を保つための水分の摂り方について話し合い、自分のめあてをもって実践できるようにする。



飲み物に含まれる砂糖の量がスティックシュガー何本分かで表現され、視覚的につかみやすい板書になっています。

研究協議より 川崎市立小学校特別活動研究会副会長 稗原小学校校長 齊野 保史先生
川崎市立総合教育センター カリキュラムセンター 下村 智英 指導主事

話題及び指導講評

- 担任と学校栄養職員が、児童に話す担当と板書の担当の役割を明確にして指導を行うことができていた。
- 4年生の時に行った学習の資料を示して既習事項を振り返っていた。学校全体として学習を系統立てて行い、年間計画に沿って指導を行うことの大切さが感じられた。
- 1週間の実践が終わった後も水分補給についての話題を取り上げ、児童が考えられるようにしていくことが大切。年間を通して題材に関連する掲示物を作成するなど、担任だけでなく学校栄養職員からも働きかけていく。
- 学級活動 (2) は生活上の課題を、教師が設定する。家庭によって事情は様々であるので、具現可能なものを選択する。自分事としてとらえられるよう、子供たちがきちんと「つかむ」ことが大切である。